

新型コロナウイルス感染症の後遺症

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が5類になって約2ヵ月が経過した。マスクの着用については個人の判断に委ねられたが、土日の休日は別として朝の通勤電車ではさすがにまだマスクを着用している人が目立つ。しかし、7月に入って蒸し暑い日が続いてくるとマスクの着用はさすがにきつく、周りの状況を見てはマスクを外す機会を窺っているのは私だけではないと思う。



学会も5類に変更されたのを契機に対面での参加が基本となった。学会参加の楽しみの一つでもある懇親会もコロナ前を彷彿とさせるように盛大に開催している学会もあると聞く。ただ、最近のCOVID-19は感染力が強く潜伏期が長いのが特徴のようで、当院でも6月下旬から病棟をはじめ各部署でCOVID-19陽性患者がボツボツと出始めており、予断が許されない状況が続いている。

3年間に亘るCOVID-19のパンデミックであるが、世界にもたらした影響は想像以上に大きい。最たるものが働き方であり、このパンデミックは職場に大きな変化をもたらした。リモートワークの導入で多くの仕事が効率化され、部署によっては人員が大きく削減され、人の配置も大きくシフトした。確かに多くの会議がリモートでできるようになって大変便利になった実感はある。実際、これまで1~2時間の会議に出席するために半日以上を費やして出席していたのが信じられないくらいである。ただその一方で、人とのつながりが重視される現場に大きな影を落としている現実もある。

先日、院長・副院長会議で、新人看護師数名から辞職願が出てきたと看護部長から聞いた。その理由は、患者の排泄ケアにどうしても対応できないということであった。更に、若手看護師の対応に悩んで休職願を出す主任や師長が増えている傾向があり、現場は大変混乱していると聞いた。その背景には、ゆとり教育で育ってきた世代であることもあろうが、COVID-19の蔓延のために看護実習もまともにできないままに卒業し、入職していることがあるようだ。確かに最近は患者も権利意識が高く、若手医療者を温かい目で見える患者も少なくなった気がする。そのような厳しい現場で医療者のプロとして仕事をすべき使命感と現実とのジレンマに思い悩む人が多いのであろう。誰でも最初から上手くできる人はなく、try and errorを重ねながら人に育てられていく。医療の中で最も重要な、人との触れ合いの場が、COVID-19によって奪われてしまったのは本当に残念であるが、この問題にどう対処・解決していくかが大きな課題である。

（船橋公彦）

顧問 森岡恭彦 武藤徹一郎 今村正之 山崎洋次 幕内雅敏
名川弘一 亀岡信悟 國土典宏 幸田圭史
編集 佐野 武 長谷川 潔 船橋公彦

定価 3,080 円 (本体 2,800 円 + 税 10%)	臨床雑誌 外科 第85巻 第9号 (8月号) 編集兼発行者 東京都文京区本郷三丁目42番6号 印刷所 東京都千代田区飯田橋二丁目15番5号	2023年8月1日発行 (1076号) 小立健太 日経印刷株式会社
発行所 株式会社 南江堂	〒113-8410 東京都文京区本郷三丁目42-6 (営業) TEL 03-3811-7239 : 振替口座 00120-1-149 番 (編集) TEL 03-3811-7619 FAX 03-3811-8660 https://www.nankodo.co.jp/	

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物の利用に関する原作者の権利は、株式会社南江堂が保有します。

・JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

広告申込所: 〒113-0033 東京都文京区本郷5丁目24番6号本郷大原ビル6階 文京メディカル TEL 03-3817-8036